

Philosophica Mahāyāna Buddhica Monograph Series 9 (大乘仏典思想叢書第9号) を発刊

このたび、弊研究所は学術研究室の西康友主幹による *Philosophica Mahāyāna Buddhica Monograph Series 9 Kern-Nanjio's Edition Romanized Text III* (大乘仏典思想叢書第9号「梵文法華経『ケルン・南條校訂本』ローマ字本・脚注補完第3分冊) を2月15日付で発刊した。本書は文部科学省の外郭団体・日本学術振興会の科学研究費の助成を受けた研究課題「梵文法華経諸問題解明のための基盤テキスト構築—『ケルン南條本』校訂へ向けて」(JP21K00058)における主要な研究成果の一つであり、梵文法華経研究の標準・基準テキストである『ケルン・南條本』の脚注の補完を目的とする(同叢書第6号第1分冊を2022年4月28日付、同8号第2分冊を2023年3月20日付で既刊)。

『ケルン・南條本』とは、ケルン(Johan Hendrik Caspar Kern, 1833–1917年)と南條文雄(1849–1927年)の両氏による梵文法華経写本を用いた初の校訂本で、1908–1912年の5年間で5分冊として刊行された(本文全490頁)。南條氏による序文には、約30年以上の歳月にわたり8種類の写本を蒐集・編纂したとある。

しかし、『ケルン・南條本』はその編集方法に①脚注の不備、②異なる書写年代・出土地域を区別しない写本の校合、といった複数の問題が発刊当初から指摘されてきた。これらの問題を解決すべくいくつかの改訂本が刊行されたが、いずれも『ケルン・南條本』と同様な編集方針であり、約110年以上も①と②の問題を払拭することはできなかった。

本書はこの問題を解決する一部であり、『ケルン・南條本』199–296頁：第8章 *pañcabhikṣuśatavyākaraṇa* (「妙法蓮華



経五百弟子受記品第八)に相当)から第13章 *sukhavihāra* (「妙法蓮華経安樂行品第十四)に相当)の脚注を補完している。これ以降の『ケルン・南條本』の脚注補完は科研費期限の今後約2年で完成予定という。

著者らは、研究作業をPC上で効率よく進捗させるため研究環境を整備してきた。梵文法華経写本ローマ字本の言語解析には研究協力者(黛千洋・弊研究所特別研究員/情報工学者)と協働して独自開発したPCプログラムを活用し、これに媒介させる梵文法華経写本ローマ字本の電子化テキストの構築には立正佼成会人事グループ分室スタッフの絶大な協力を得ている。

弊研究所では多くの研究者に供するよう、ウェブサイト上に本叢書のPDF版を公開している(<https://www.cari-saddharmapundarika.com/philosophica>)。

本叢書が多くの仏典研究者に活用され、仏典研究における諸問題解決の処方箋となるように、また梵文法華経写本からの漢訳とされる『妙法蓮華経』について文献学・言語学的な確証を得た法華思想研究に資する基盤資料の構築に期することを願ってやまない。

所報 CANDANA 297号

令和6年4月15日発行
発行所/中央学術研究所 発行者/橋本雅史
〒166-0012 東京都杉並区和田1-2-1
電話 (03) 3382-5687 FAX (03) 3381-9771
<http://www.cari.ne.jp/>

チャンダナ

栴檀(candana)とは、印度に産する香木で、紫、赤、白などの種類があるが赤を最上とする。熱病を治す効果があるので与楽(よろく)ともいわれ、楽を与えるという。香気が非常に高いので、一葉開いても四十由旬(ゆじゅん)の悪臭を消すと伝えられている。